

月曜日休館(祝日の場合は翌日休館)

●開館時間

9時～17時(入館受付は16時30分まで)

●入館料

一般500円 高校生300円

小・中学生無料

※友の会会員 無料

障害者手帳提示の方・付添者 無料

団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方 2割引

●主催 財団法人 林原美術館

●後援 岡山県郷土文化財団・

NHK岡山放送局・RSK山陽放送・山陽新聞社

●ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日14時から

学芸員によるギャラリートークを行います。

(平成24年2月11日(土))は

スペシャルギャラリートーク)

企画展

うるわしき うるしの美

平成24年1月7日(土)～3月4日(日)

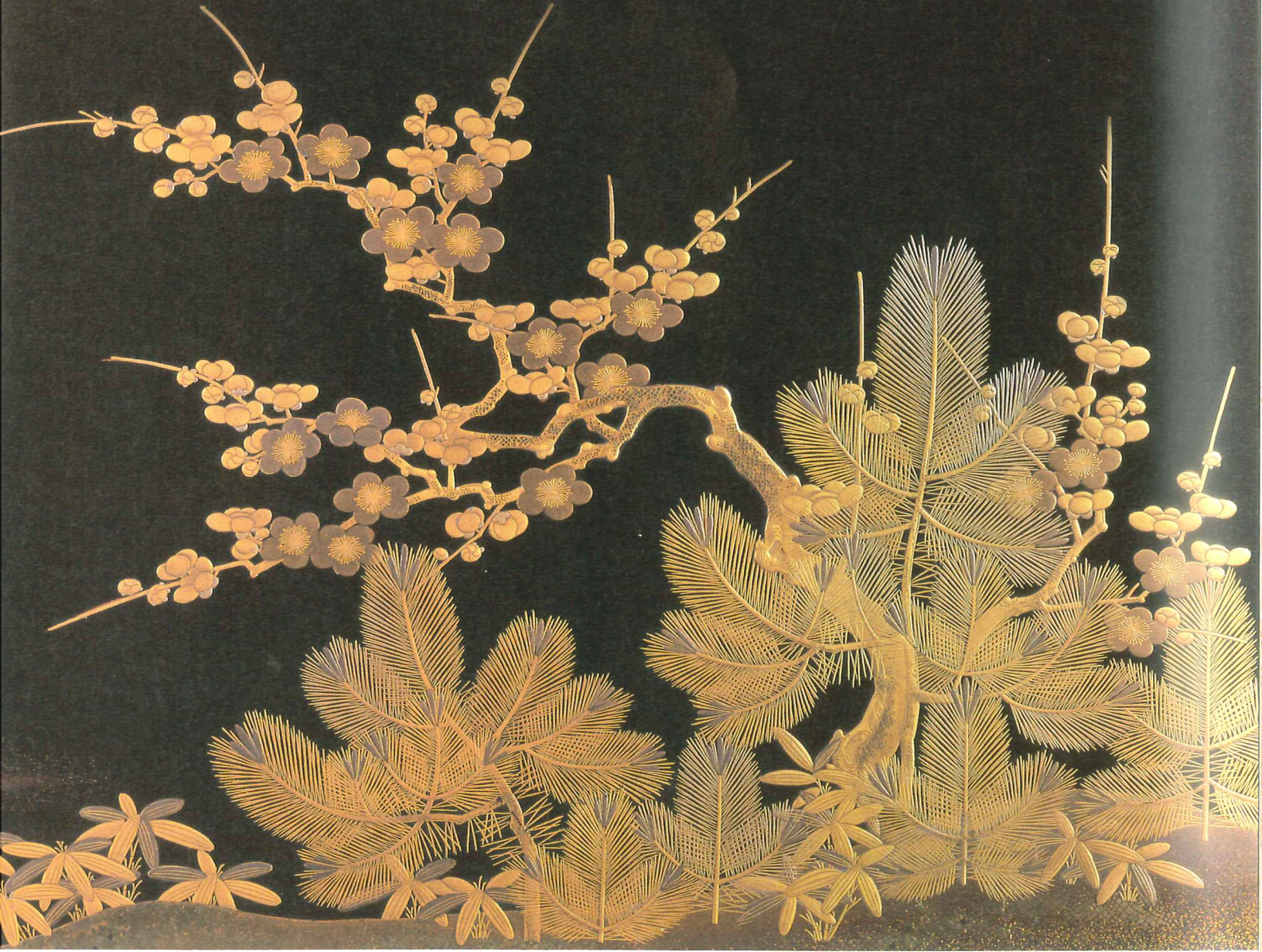
林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15

TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

松竹梅詩絵見合(背面) 江戸時代





企画展
うるわしき
うるしの美

古来日本人の最も身近にあった工芸品の一つに漆器があげられます。漆汁がしたたる様子が語源となり、「うるおう」や「うるわし」の意を含んだ「うるし」と呼ばれるようになりました。特に調度類や家具類に塗られた漆はしっとりとした光沢を放つ塗肌的美しさに魅力があり、これは他の塗料では得ることのできない、東洋独特の美の世界です。平安時代には漆を用いて金銀の細かい粉を蒔きつけて文様をあらわす蒔絵が盛んになり、江戸時代にその技術は最高期を迎えます。四季折々の花鳥風月や源氏物語など日本ならではの華やかな意匠が施された蒔絵は日本を代表する工芸品です。

本展覧会では初春を慶び、林原美術館が所蔵する近世の漆工芸品を中心に展覧します。松竹梅や鶴文様、桐鳳凰文様などのめでたい意匠にも注目されます。年の初めに日本美の粋に触れていただければ幸いです。

- ①群鶴梅蒔絵鞍（部分） 江戸時代
- ②南天扇面蒔絵食籠 江戸時代
- ③流水水草蒔絵提重 江戸時代
- ④「清流雅韻」料紙箱 明治時代

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

*車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告

特別展「洛中洛外図屏風に描かれた世界」

平成24年3月17日(土)~4月15日(日)

洛中洛外図屏風とは京都の景観を描いた屏風のことで、本展覧会では国宝の上杉本（米沢市上杉博物館）や重要文化財の舟木本（東京国立博物館）、当館所蔵の池田家本など、日本を代表する洛中洛外図屏風を一堂に集め、そこに描かれた京の雅をご覧いただけます。